

令和 6 年度 3 学期始業式式辞

式辞の前に一つ報告をします。年末に文部科学省から、大湊高校が「キャリア教育優良校 文部科学大臣表彰」されることが決定したと通知がありました。

「キャリア教育」というのは、簡単に言うと「自立した社会人となるための教育」です。総合学科である本校では、全ての学校活動がそのままキャリア教育活動になっています。

外部人材と積極的に協力・連携した各系列の学習、探究活動、「外まなび部（ソトマナ）」のボランティア活動等、「下北 BOUSAI ネットワーク」の目を見張る活動、また体育系・文化系両部活動での活躍等、実に多彩なキャリア教育活動に、皆さんは参加し、頑張り、成果を上げてきたわけですが、これを文部科学省が非常に高く評価してくれたわけですから。日本には高校が※4,800 校ほどありますが、今回表彰を受けた高校は、35 校のみです。

生徒の皆さんが頑張った。先生方も頑張った。事務の皆さんも頑張った。そして講師を務めていただいたり、インタビューに答えてくださったり、協力してくださった方々、地域の方々、PTA、同窓会、後援会の方々等々、多くの方々の支え、協力があって今回の受賞につながった。文部科学大臣表彰、大変な快挙です。皆さん、自分の活動に自信を、そして母校に誇りを持ってください。国内有数の学びが、大湊高校で繰り広げられているのです。

つきましては、2 月 6 日、皆さんを代表して東京の表彰式に出席してきます。まずは報告でした。

※ 式辞に際して「5,600 校ほど」とお伝えしましたが、正しくは「4,800 校ほど」です（令和 6 年 12 月 18 日文部科学省公表 令和 6 年度学校基本調査（確定値）によると 4,774 校）。大変失礼いたしました。

ここから式辞です。

1 年の締め括りの学期が始まります。

「終わり良ければ全て良し」という言葉があります。「途中の経過がどんなに悪くても、終わりが良ければ評価される」という意味ですが、これは「どんなに途中の経過が良くても、終わりが良くなければ評価されない」ということでもあります。

「終わりが良い」というのを、私は「終わりまで力を尽くした」とことと捉えています。結果はどうあれ、大事なのは「最後までやりきったかどうか」だと考えます。

3 年次の皆さん、いよいよ卒業が見えてきました。最後まで力を尽くし、やるべきことをやりきってほしい。特にこれから入学試験に臨む皆さん。そして就職試験に臨む皆さん。心を落ち着け、体調を整え、粘りに粘ってください。もうだめだとあきらめないでください。これまでの苦勞、頑張りを「全て良し」とするためには、「終わりまで力を尽くした」と自分自身が納得できることが必要です。他人はごまかせても、自分をごまかすことはできないからです。

1 年、2 年次の皆さん、この 1 年の学校生活、すなわち学びの中には、失敗・挫折も多々あったことと思います。それを引きずっている人も多いのではないのでしょうか。どうしたらいいか。答えは、とにかく最後まで走りきること。今は分からなくても、最後まで走りきることが、失敗・挫折の克服に絶大な効力があることを、後で知ることになります。「終わり良ければ全て良し」という言葉を、生きる上での知恵として、身体感覚で理解してもらえたらと思っています。

締め括りの 3 学期がスタートします。ここまでの努力、失敗・挫折を無駄にしないために、皆さん、走りきりましょう。

令和 7 年 1 月 14 日(火)
校長 伊藤文一